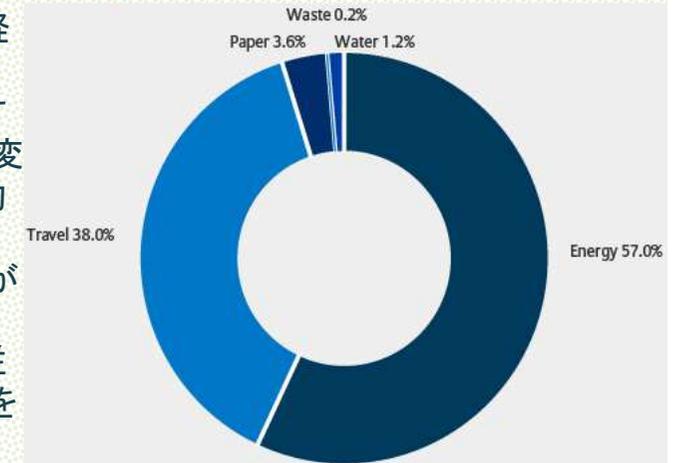


## 各企業の考え方

## □ 算定を行う背景・目的

Allianz Website  
[https://www.allianz.com/en/responsibility/progress\\_report/environmental/carbon\\_footprint.html](https://www.allianz.com/en/responsibility/progress_report/environmental/carbon_footprint.html)

- 自社の気候変動に対する戦略において低炭素経済の確立に向けて取り組むことを宣言している。
- 自らが直接関わるカーボンフットプリントを削減するだけでなく、グローバルな金融機関として気候変動によるリスクや機会を認識してもらうことを目的としている。
- エネルギーの使用、出張、紙の使用による排出が全体の99%を占めており、これらに焦点を当てた取り組みを行うことで、2006年比で2015年までに従業員1人当たりのCO2排出量を35%削減することを目標としている。



## □ 算定結果の活用方法

- 算定結果は削減の取組を評価、促進するために活用しており、その進捗状況はサステナビリティレポートなどで公開している。

## □ 算定のメリット

- システマティックな算定を行うことで、環境データの管理や透明性の高い報告ができ、資源利用量の最小化、カーボンフットプリントの削減に役立つ。

## □ 算定方法

- Scope3排出量としては、出張、紙の使用、水の使用、廃棄物の算定を行っている。
- GHGプロトコルが定義する経営支配力基準を使って算定範囲を設定しており、経営支配力を持つ企業の大部分からデータを収集している。
- 2011年には、これらのデータが従業員数ベースで83%となっており、残りの17%はグループの平均値を適用して推計している。
- GHGプロトコルの動向など、新たに公表される基準については常にフォローしており、算定方法や排出原単位のアップデートを行っている。

## □ 社内の算定体制

- グループ企業全体でのEMSを持っており、グループ全体のサステナビリティを考慮する部署であるAllianz4Goodがその運営を担っている。

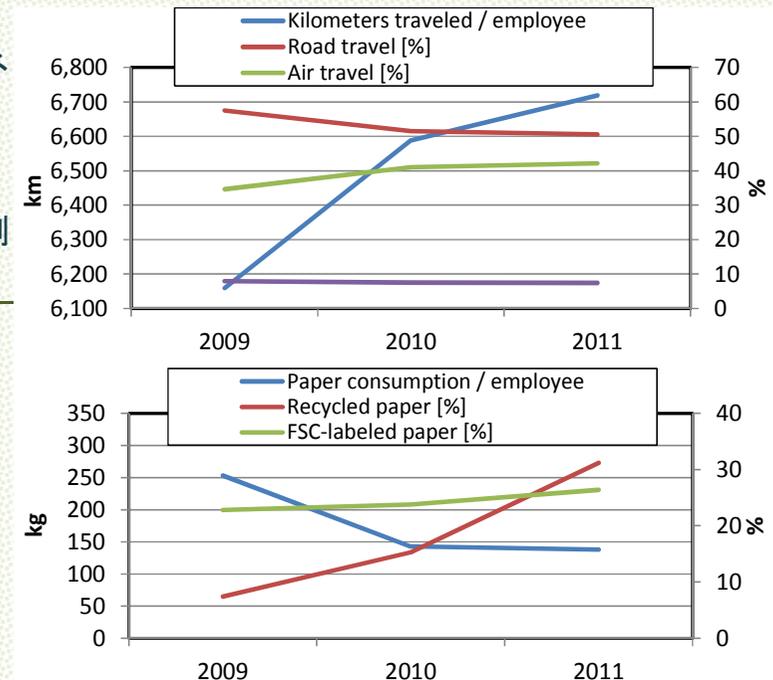
## 各企業の考え方

### □ サプライチェーン排出量の削減に向けて

- 業務の性質上、サプライヤーに関連するリスクは限られているが、最優先の目的は、サプライチェーンにおけるサステナビリティを向上させ続けることである。
- これは、全てのサプライヤーがAllianzの行動規範や調達基準などのESG (Environment, Social, Governance) 基準に従っていただくことにつながっている。
- これらの規範や基準は国際労働機関や国連グローバルコンパクトに基づいており、人権、労働基準、環境保全、汚職防止をカバーしている。
- 自然資源の消費量の削減、環境フットプリントの改善を行うために幅広い取組を行っているが、Scope3排出量の大部分を占めるエネルギーの使用、出張、紙の使用に焦点を当てて取り組んでいる。
- 例えば、グリーンIT調達基準を設け、エネルギー効率の高い製品を購入している。Energy StarやEPEATはグループ全体での基準となっている。
- また、出張に関する社内での基準や印刷に関する基準なども設けている。

### □ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

- 自らのGHG排出量の内、どの部分が大きいのかを把握し、そこに焦点を当てて取り組んでいくことが重要である。



Allianz Websiteより作成